第22回　みどりの文化賞

さくらは日本のシンボル
～大震災からの復興の励みに

受賞者

佐野　藤右衛門 氏（84歳）

1．潤いのある緑豊かな生活環境の創造はもとより、地球温暖化防止など緑の保全・創出に大きな期待が寄せられる中で、「さくら」は日本を代表する花木として国民に愛され、人の心を和ませ、居住地周辺の美しい景観の創造はもとより、国土の緑化、国民の精神の高揚、国際親善等に大きな役割を果たしている。

2．佐野藤右衛門氏は、天保 3 年（1833 年）創業の㈱植藤造園の 16 代佐野藤右衛門（代々 京都仁和寺御室御所に仕えてきた庭師）を襲名し、庭園の設計、施工、管理等を行ってきており、国内はもとより、ヨーロッパ、アメリカなど海外においても作庭を通じて日本文化の普及に貢献してきた。

3．全国の桜の調査の成果を「さくら大観」「京の桜」として取り纏めるとともに、14 代佐野藤右衛門からの「桜守（さくらもり）」を受け継ぎ、京都円山公園、蹴上インクライン、仁和寺の御室桜など、日本各地の名桜の保全に努めてきた。

　また、平成 10 年からは、（財）日本さくらの会の副会長として、全国各地で桜の植樹活動を推進するとともに、「桜守（さくらもり）」として各地で講演を行うなど、桜を通じて自然や生活環境の変化、日本人の心の変化を問いかけ、桜をはじめとする樹木の保護・保全の啓発に貢献してきた。

4．桜は、公園から居住地周辺の全国津津浦々で、日本の春を象徴する花として人々に最も親しまれ、花の美しさ、生命力の強さから日本人の精神の象徴としても取り上げられてきた。

　桜が東日本大震災の被災地において、復興への希望と励みのシンボルとして次々と植栽されている。

　こうした日本人の心を癒す桜を守り・育ててきた氏のこれまでの活動は高く評価される。

【佐野藤右衛門氏の経歴等】

（略歴等）

昭和３年４月　京都府に生まれる
昭和22年３月　京都府立農林学校園芸科卒業
昭和23年４月　家業（植藤造園）従事
昭和56年５月　植藤造園代表者、16代佐野藤右衛門を襲名
平成３年５月　京都府造園協同組合理事長
平成９年10月　（株）植藤造園代表取締役

平成元年　黄綬褒章受章
平成９年　ユネスコ本部「ピカソ・メダル」受賞
平成11年　「勲五等双光旭日賞」受賞
平成18年　日本造園学会賞受賞（京都迎賓館作庭部門）

（主な庭園等の作設・修復工事等）

昭和59年　サンパウロ市桜植栽工事（ブラジル）
昭和63年　ユネスコ本部日本庭園工事（フランス）
平成２年　国際花と緑の博覧会庭園整備工事（大阪府）
平成３年　ハンブルグ市桜植栽工事（ドイツ）
平成５年　大阪造幣局桜植栽工事（大阪府）
平成14年　百道浜河岸緑地復旧工事（福岡県）
平成17年　京都迎賓館庭園工事（京都府）
平成22年　桂離宮池泉周辺整備工事（京都府）　など

（主な著書）

『さくら大観』（平成２年）
『桜のいのち庭のこころ』（平成10年）
『木と語る』（平成11年）
『桜よ「花見の作法」から「木のこころ」まで』（平成16年）
『桜守のはなし』（平成24年）　など